

地質調査技士に合格して

塙 弘 幸

月日の経つのは早いもので、私が入社して丸5年が過ぎました。今までに様々な苦労もあり、何とか向上心を持ち続けて頑張ってきましたが、経験を積んでいくにつれてこの業界の奥の深さが身にしみる今日この頃です。

入社したての頃は右も左もわからず、打ち合わせに行っても思うように説明できなかったり、現場に行っても何をしていいのか解らなかったりということもありましたが、「継続は力なり」とはよく言ったもので、最近ではスムーズに仕事をこなせるようになってきたと実感できるようになりました。今までこうしてこられたのも上司、先輩方にも恵まれてきたからではないかと思います。

そんな中、ここ1~2年の間に業務に携わる上で様々な資格取得が必要とされるようになり、私自身も地質調査技士の取得の必要に迫られ、今回受験することとなりました。

受験するにあたって、今までに経験した

ことを思い出し、あれこれ考えながら問題を解いてみたり、ボーリングの技術的なこと、機械の構造的なことを現場作業の合間にオペレーターの方に教わったりしました。

試験当日、やるだけのことはやったという気持ちで受験しました。今年の試験は、本資格が重視されたためか受験者数も多く、私と同様に現場代理人をつとめている方も数多く見受けられました。

試験を受けてみると、いくつかわからぬ問題もありましたが、勉強の成果が出たのか、まずまずの出来で午前中の筆記試験を終えることができました。午後の口頭試験でも緊張しながらも、何とか自分が経験してきた中での率直な意見を述べることができました。

試験が終わり、合格発表までは心配で落ち着かない毎日でしたが、無事合格することができました。これもたくさんのアドバイス及び激励をくださった方々のおかげであると感謝しております。

これからは、地質調査技士としての自覚を持ち、新たな気持ちで今以上に多くのこ

とを学び、それらを毎日の業務に反映させてゆかなくてはならないと思っております。また、地質調査技士の名に負けないように、よりいっそうの向上心を持って、常に一步進んだ仕事をしていきたいと思っております。

(株東建ジオテック)

山 田 紀 之

試験合格までの流れを、以下に簡単にまとめてみました。

〈事前講習会〉

前年も受けているにもかかわらず、今回も受講する。たてまえは「受験勉強及び新しい受験対策情報入手」、本音は「1点プラス?」。

〈試験前〉

事前講習会を受けた後は、前年も同様であったが今から毎日30分勉強すればバッチリだろうの気分になる。しかし、最初の2日ぐらいしかもたず、しばし休憩に入る。

試験日が近くなつて、やたら気持ちに焦りがあるのを自覚する。気合いを入れる。

〈試験当日〉

筆記試験は前回よりちょっといいぐらい。前回より問題が難しかったような気がする。面接は、自分にしては良くできた。事前講

習会で頂いたテキストに、面接対策について良いアドバイスがあり、それを何度も読み返してマインドコントロールにかかる。それが効を奏した模様。

〈合格したときの感想〉

ある日、上司からの電話で合格したんじゃないかと連絡を受け、とりあえず驚く。ちょっと嬉しいが、喜びを顔に出しておいて、違っていたら恥ずかしいので極力我慢する。合格番号は確かなのか、上司は写真まで撮ってきてくれる。間違いはなく、「合格したんだ、嬉しい」という気持ちと同時に地質調査技士の名に恥じないよう頑張らねばという気持ちも湧いてくる。

今回、こうして合格できたのも現場や会社で、基本的なことから御指導及び注意をして下さっている先輩、オペレーターの方のおかげであります。また、日頃の仕事のなかでの、御指導や勉強が自分に役立つことを信じて、よりいっそうの努力をしたいと考えています。

(大成基礎設計株)

瀬 川 好 彦

私がこの地質調査という職種に足を踏み入れて、早6年が経過した。当初大きな期待と不安でいっぱいであったが、現場での

作業は、日々技術の修得と土質・地質との格闘（少々大げさ？）であり、経験を重ねるにつれ、不安は少しづつ薄れていった。

現場業務は、夏場の猛暑、厳寒の冬場とけっして楽なものではないが、季節の移り変わりなど自然の美しさを肌で感じられ、他の人には体験出来ない喜びもある。その反面、ここ数年とりだたされている環境問題を一番身近に体験しており、けっしてこの問題には無縁ではなく、樹木の不必要な倒伐、泥水の処理など考えさせられるものがあり、自然と付合う者として、環境破壊をこれ以上進めないよう努力していきたい。

今回、地質調査技師に合格出来た事で、一つの言葉を思い出した。「土のことは土に聞け」まさにその通りで、調査・設計はここから始まり、自分の役目は、口のきけない彼らを自分の手で、もてる技術で何を語ろうとしているのかを理解する事であると、改めて感じている。

文章の始めに早6年と書いたが、調査技師としてまだまだ半人前の私には、たった6年、スタート台に立ったばかりであり、今後はどんな小さな事も頭と体で全て吸収し、自身の為、また、地質調査業界のレベルアップに少しでも貢献できるよう頑張りたい。
(不二ボーリング工業㈱)

佐藤辰江

私が地質調査技士の試験を受験したのは、経験年数がやっと（？）条件を満足するようになったこともあります、多少なりとも機械ボーリングについて勉強したいと思つたからです。

試験に先立つて講習会を受講しました。受講したとはいえ、かなりの範囲が対象となつてゐるため、すべての項目を理解することはできませんでした。そこで、改めて講習会のテキストに沿つて勉強していきました。自分の得意分野は、現場技術の分野であることはわかつてゐたので、それを重点的に勉強しました。現場に出ることが多いとはいえ、正直いって、現場で見る機械がどういう名前の部品で成り立つてゐるのかわからぬものが多く、最初は知らない用語が出てくるたびボーリングポケットブックと首っ引きでした。しかし、時間が経つにつれ、徐々にわかつてくるのが嬉しくなりました。

とはいへ、すべての項目について自信がついた訳でもなく、不安は残りましたが、ものは力だめしということに考えて、試験当日を迎えるました。選択問題は全部回答し、安心したのも束の間、記述問題が十分に答えることができないうちに終了時間になつ

てしまいました。その後口述問題も終わり、ほっとした反面、「本当にこれでよかったのだろうか?」という試験前とは違う不安が生じ、それは合格発表の直前まで続きました。

合格発表は、技術フォーラム96'仙台の会場で直接見ました。受付近くの掲示板を見ると、合格者の名簿が掲示されていました。その中には私の受験番号と名前が載っていました。本当に嬉しかった瞬間でした。しかし、嬉しいと同時に、自分の肩に責任が重くのしかかってくるような気がしました。

今登録証を手にして改めて思うことは、本社からの問い合わせがきっかけでしたが、

対外的にも一技術者として扱われるようになったということです。たとえ自分でまだ経験が浅いと考えてはいても、この資格がある以上、世間に對してある種の責任を負うようになったということです。また、この資格を取得したことで、自分に自信がついたと同時に、入社以来ずっと指導して下さった上司や協力業者の皆さんには感謝しても、し尽くせません。

これからも様々な現場に行くことになりますが、登録証を初めて手にした時の感動を忘ることのないよう、業務を担当していきたいと思います。

(梶谷エンジニア(株))

